セレンディピティとOさん

豊澤　幸平

仕事の現役時代からセレンディピティという言葉に興味を持っていた。セレンディピティとは、「別のものを探している時に、偶然に素晴らしい幸運に巡り合ったり、素晴らしいものを発見したりすること、またその能力」。イギリスの作家ホレス・ウォルポールが一七五四年の書簡で作った造語といわれている。The Three Princes of Serendip、セイロンの三王子がこの能力を持っていたことをセレンディピティと命名した。数々のノーベル賞、商品開発でもシャンパン、人工甘味料、ナイロン、電子レンジ、ポストイット等がセレンディピティの産物と謂われている。セレンディピティは偶然の出来事ではなく、偶然の出来事が創造的な人間によって捕まえられる過程である、とも専門書にある。

「何でも書こう会」に入会させて頂いてこの十一月でちょうど一年である。入会のきっかけは会に所属されているOさんに昨年十月、化学系「K社」のOBが集うゴルフコンペ後に、「こんな会がありますが、興味があるなら一度見にこられたらどうですか」と声をかけていただいたのが始まりである。ご紹介を頂いた内容に興味があり、同一二月の発表会に試験的に参加、その結果入会させて頂いた。

実は、Oさんと私の出会いは偶然である。Oさんと私は大卒後、異なる会社に入社・在籍していたが、お互い後年に同じK社に移籍した。しかしながら二人がK社に在籍した時期は異なる。その後、K社のOB会の飲み会やゴルフ会でご一緒し懇意にさせて頂いていた。

お互いのキャリアから言えば本来なら出会うチャンスはほとんどないが、たまたまK社のOBが集うゴルフ会でお誘いを頂いたことは、私には特殊な能力はないが、私にとっては「セレンディピティ」そのものである。

「Oさん、お誘いをありがとうございます。お陰様で素晴らしい方々と出会い、上手くないエッセイを書くことで頭を使い、皆さま方に聞いて頂いています。飲み会も楽しいです」

（二〇二四年十一月十四日）